

美術科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066571

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



美術科

西澤 明

共同研究者 鷺山 靖（金沢大学）

1. Society5.0 に向けた教育を進めるに当たって

学習指導要領に示された三つの柱，①「知識及び技能」，②「思考力，判断力，表現力等」，③「学びに向かう力，人間性等」を踏まえ，美術科では育成を目指す資質・能力を，①については「造形的な視点を豊かにするために必要な知識，表現における創造的な技能」，②については「表現における発想や構想と，鑑賞における見方や感じ方など」，③については「学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情，豊かな感性や情操など」と説明されている。

文部科学省による政府報告書では，Society 5.0 の実現に必要な資質・能力の一つとして「価値を見つけ出す感性と力，好奇心・探求心」とあり，「AI によって代替できない人間ならではの営みであり（中略），自然体験やホンモノに触れる実体験を通じて醸成される豊かな感性や，多くのアイデアを生み出す思考の流暢性，感性や知性に基づく独創性と対話を通じて更に世界を広げる創造力，苦心してモノを作り上げる力，新しいものや変わっていくものに対する好奇心や探求力，実践から学び自信につなげていく力などが重要である」と説明されている。これは上記，美術科で育成を目指す資質・能力，とりわけ③の「学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情，豊かな感性や情操など」と密接な関わりを持っていると言えるだろう。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

本校では，「Society 5.0 を主体的に生きるための資質・能力」を右のようにまとめ，共有した上で，各教科が実践研究を進めている。美術科で育成を目指す資質・能力との関わりについては，「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」が共通する目標であるのはもとより，「イノベーターのマインドセット」の，型にはまらない，ひとまずやってみる，失敗して前進するといった取り組みの姿勢

Society 5.0 を主体的に生きるための資質・能力

- デザイン思考
- イノベーターのマインドセット
- より良く生きようとする態度
- 多様性の尊重
- 自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性
- 持続可能な社会を志向する倫理観・価値観
- 文章を読み解く力
- 対話する力
- 論理的思考
- 批判的思考

は，表現活動の制作における考え方と共通したものだし，「多様性の尊重」の考え方は，鑑賞活動の基盤となる資質・能力だと言っても過言ではない。

(2) 関連・連携を図った教科等について

1年「祈りと願いの表現」

美術科の学習活動，特に鑑賞活動では様々な時代の造形作品を扱う。他教科では，社会科，歴史分野の学習の中で，同様に様々な時代の文化や作品が扱われている。そこで社会科と関連，連携

を図ったプロジェクトを行った。

社会科の歴史分野で扱う様々な時代の文化や造形物については、あくまでも歴史的背景の中でそれらがどのように生まれたのかを学習するが、美術科では歴史的背景よりも造形物の基本的な知識（作者、時代、素材、技法など）の学習、造形物の鑑賞を通して豊かな感性を育むことを目的とした学習を行う。しかし、両教科に共通して、造形物を作った人々やそれを見る人々の思いを考えるとという目的を設定できることから、そうした人々の「祈りと願い」をテーマとして連携を図ることにした。さらに、生徒の作品完成後に「祈りと願い」をテーマにした展示を行う予定もあり、美術科の作品、社会科のレポート、さらに作品制作の意図や社会科の学習との関わりについての説明文を国語科の授業で行うことで、三教科が関わるプロジェクトに発展できると考えている。

具体的な活動の流れについては、社会科の授業で学習した土偶、仏像といった造形物を受け、美術科では「祈りと願い」をテーマにした彫塑作品の制作を行った。

作品のテーマを、現代社会や自分自身の生活の中での「祈りと願い」とすることで、より主体的な取り組みができると予想されたが、主題の構想に入る前に、土偶や仏像をはじめ、狛犬、鬼瓦、京都の鍾馗等の紹介と鑑賞を行い（下図参照）、悩みや苦しみからの「救済」や災いや誘惑からの「守護」という、人々の「祈りと願い」の思いを一層明確にさせるように心掛けた。生徒たちはこの鑑賞の活動を通して、過去から現在に至るまで人々が様々な悩みや苦しみを持ってきたこと、そしてその悩みや苦しみに対し、大きな力を持った何かに支え、守られたいという「祈りと願い」を持ってきたことをあらためて認識できたようだ。そしてその「祈りと願い」を向ける対象として、目に見える姿として生み出された造形物が、身の周りの様々な場所に息づいていることにも気付くことができたようだ。さらに、こうした素朴な造形物の表現は、技術的に自信がない生徒にとって表現方法の参考にできることもねらいとしている。



生徒に鑑賞させた造形作品例

造形物の鑑賞に続いて、生徒には現代社会や自分の生活における悩みや苦しみを考えさせ、さらにそこから「祈りと願い」の主題を決めさせた。そして、その悩みや苦しみを解決してくれる対象はどのような姿をし、どのような特徴が必要かを考えさせた（次ページ参照）。

あなたが「やりたい」「聞きたい」と思う「解決したいこと」を決めましょう。その理由も教えてください。

誰もが平和に暮らしたい。安全に暮らしたい。できるかにかたい。

わけは、アフリカやアジアの一部などで、衛生や種差別で普通のくらしから遠い人がたくさんいるし、何かをしてすると入院しているような人がいるから。→なにかしたい!

「やり」「聞い」をかなえてくれるものの中に必要な特徴を考えてみましょう。その理由も教えてください。

例：見逃さないように目撃できる人
薬草 → 何かを治せるお薬も身につけている。天ひん → 悪人を治せるお薬
ハト → 平和の象徴。子ども → 純粋な気持ち
本 → 仲介するための法がたててある。優しい本



あなたが「やりたい」「聞きたい」と思う「解決したいこと」を決めましょう。その理由も教えてください。

勉強や作業をうけるときに、睡意をおそれずに集中して勉強したい。なせなら、自分はアチ期間と夜と勉強したのにも眠く気がして、それが、16年ほど、知識が頭に入らなから。

「やり」「聞い」をかなえてくれるものの中に必要な特徴を考えてみましょう。その理由も教えてください。

例：見逃さないように目撃できる人
足してくわのく、人々(目撃者)にアチロバスク開いて作られる
アチロバスク開くと足でくわのく、アチロバスク開いて自分の体とミツリ足して
くわの武器を持つ。アチロバスク開いて自分の体とミツリ足して
眠くなくても立ち上がれるように作る。



あなたが「やりたい」「聞きたい」と思う「解決したいこと」を決めましょう。その理由も教えてください。

「朝早く起きたい。」
→ 朝早くも早く起きれない! アラームの音すらも聞こえない!
もし朝早く起きることができたなら、朝の準備にやうやうもたらし、朝の運動だててみるから。

「やり」「聞い」をかなえてくれるものの中に必要な特徴を考えてみましょう。その理由も教えてください。

例：見逃さないように目撃できる人
・太陽のモチーフ
・もっているもの
悪夢 → かいので起きれる?
アラーム → 音で起きれる?
アラーム → 音で起きれる?
アラーム → 音で起きれる?



あなたが「やりたい」「聞きたい」と思う「解決したいこと」を決めましょう。その理由も教えてください。

人の良いところを見つけられるようにしたい。
人の良いところを見つかるから、自分もそれを目指せるから。
他人が得意な自分の良いところを知って、自信を失ってしまわないから。
誰にも良いところがあるから、それを見つかるようにしたいから。

「やり」「聞い」をかなえてくれるものの中に必要な特徴を考えてみましょう。その理由も教えてください。

例：見逃さないように目撃できる人
人の良いところを見つかるように目撃できるように
人の良いところを見つかるように目撃できるように
人の良いところを見つかるように目撃できるように



生徒のアイデアスケッチから

生徒の作品の造形方法については塑像とし，制作後に焼成，テラコッタ作品にすることにした。これは，1年生という学年では土の扱いが未熟で，立体物を造形する際，細く，薄く，細かくなりがちのため，焼成が不要な加工粘土では強度が不足すること，土偶や埴輪，シーサーなどの造形物と近い仕上がりになることを踏まえての選択だった。しかし，焼成時の破損を避けるためには，十分な乾燥や堅牢な造形を作るための技術指導がもう少し必要だったように思う。以下は概ね良好な仕上がりの生徒作品例である。



2年「紙芝居制作」

家庭科の幼児教育に関する学習活動で幼稚園児に紙芝居を見せる取り組みがあり，その紙芝居の制作の一端を美術科で行った。紙芝居の内容の構想作業については家庭科が行い，美術科では内容に応じたキャラクターのデザインや絵図の制作を担当した。キャラクターの多くは人物や動物だったのだが，そのような具体的なモチーフがある場合，中学生の大半は実際の姿形に忠実な，写実的な絵を描こうとする傾向がある。そのこと自体は悪いことではないのだが，イメージしたことを実際に描くことは困難で上手くいかない。そのため稚拙でいい加減な絵になり，意欲も低下してしま



生徒の紙芝居作品から

う場合が多い。しかし、今回は幼稚園児対象の紙芝居ということであったため、あえて写実的な絵ではなく、幼児が親しみやすい絵図を描かせることにした。まず様々な絵本原画から実際の作品例を見せ、決して写実的に上手な絵を描くことが求められているのではなく、キャラクターの特徴を残しながら「省略・単純化・誇張・バランス」といった観点でデザインされた絵の方が楽しいことを理解した上で、制作はコンピューターの描画ソフトを使って行った。

3年「Tシャツ制作」

外国人が着る日本語の文字がデザインされたTシャツや、日本人が着る外国語の文字がデザインされたTシャツの中には、その内容が不適切だったり意味不明だったりするものがしばしば見受けられる。そうした実情を課題として捉え、国語科、英語科、美術科で連携したプロジェクトを実践した。日本語と外国語、それぞれの言葉の意味を理解することはもちろん、そこに書かれる内容をその国らしさや文化と結びつけることや、文字自体の美しさを意識したデザインであることを課題に、それぞれの教科の学びと関連付けながら、段階的に分担して活動を行った。

まず国語科において、俳句の題材を通して日本文化のよさを考える学習活動を行い、Tシャツのテーマにする俳句作品を考えた。次に英語科において、その俳句の内容や生徒自身の感想などを英語で説明する学習活動を行い、最終的にはそのTシャツを着て外国人留学生に説明する活動を行った。

美術科では俳句作品の文章の文字を、フォントの種類、文字の色や大きさやレイアウトといった造形的な観点からデザインした。使用する言語については、元の日本語もしくは英語のどちらかを選択し、コンピューターのプレゼンテーションソフトを用いてデザインした。既存の画像編集ソフトを使用しなかったのは、単語ごとの編集やレイアウトのデザインがしづらい点を考慮したためである。以下は生徒の活動の様子である。



Tシャツの制作(上段:パソコンによる制作, 下段左:完成したTシャツ, 下段右:英語科による発表)

3. 成果と課題

(1) 成果

今回、美術科では三つの教科横断的なプロジェクトの取り組みに関わることができた。これは、ものづくりを行う活動が学習の主体である美術科の教科性が、他教科とつながりやすいことが理由だと考えられる。三つのプロジェクトで美術科が担った生徒の活動は、これまでに授業で行ってきた題材と重なる点も多かった。しかし、教師と生徒が共にプロジェクトの概要を承知し、他教科とのつながりを意識したことで、教師の学習指導の目的や、生徒が主題を考える際の方向性がより具体的になり、深まった。

特に1年生で行った「祈りと願いの表現」では、美術科ではなかなか踏み込めなかった歴史的な時代背景を事前に社会科で学習したことで、生徒たちが、自分たちの制作する造形物の主題や意図を持ちやすかったようだ。さらに鑑賞活動では、歴史的な造形物が過去の人々の「祈りと願い」の対象というだけでなく、現代の人々の「祈りと願い」の対象として面々と引き継がれていることに、あらためて気付かせることができた。このことは、今後行われる修学旅行をはじめ、寺社仏閣を訪ねる機会に、単なる観光地訪問ではなく、人々の「祈りと願い」の対象として真摯な態度で向き合う姿勢につながったり、日々の生活で見聞きする季節や土地ごとの伝統行事を、より身近に感じられたりする、豊かな感性の育成につながると考えている。これは、本校が定める「Society 5.0を主体的に生きるための資質・能力」における「自然体験や本物に触れる実体験を通して醸成される感性」にも合致すると考えられ、時代や作者による様々な表現の違いや、個々の生徒の表現の違いに対する理解は「多様性の尊重」と言えるだろう。

(2) 課題

他教科との関連を考え、連携を図る今回のプロジェクトでは、課題として、内容と時期の問題が挙げられる。今回携わった三つのプロジェクトのうち、3年生の二つのプロジェクトは教科間で順番に活動を引き継ぐ内容であった。こうした引き継ぐ形での連携は、週に数時間の授業がある教科と週一回の授業の美術科で授業の回数が大きく異なる。実際、今回三年生で行ったTシャツと紙芝居のプロジェクトでは、引継ぎの関係上、美術科は二、三回の授業での対応を余儀なくされた。そのためじっくりと腰を据えた事前学習ができず、生徒は十分な知識・技能を身に付けることなく本制作に取り組むことになった。学習に対する取り組みが煩雑なものになり、教師も、本制作の指導を行いながら、個々の生徒への対応を行わざるを得なかった。今後は他教科の活動における作品制作の場面を分担するのではなく、すでに美術科で学習している知識や技能を活用したり、すでに完成している作品を活用したりする形での関わり方がよいかもしれない。

その点で、社会科の歴史分野における、様々な時代の造形物について「祈りと願い」の観点で作成するレポートと、美術科における「祈りと願い」をテーマにした作品を同時に展示する「祈りと願いの企画展」のプロジェクトについては、多くの可能性を感じており、年度末の実現に向けた今後の計画と取り組みが楽しみなところである。

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○） 3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定めるSociety5.0を 主体的に生きるための資 質・能力
1	1 ～ 2 本 時	<p>■「祈り」や「願い」の対象の造形物を鑑賞する。</p> <p>①「祈り」や「願い」の対象事例（土偶・神仏像・シーサー・狛犬・鬼瓦・鍾馗さんなど）を鑑賞する。</p> <p>②対象にこめられた人々の「祈り」や「願い」について考える。</p>	<p>○時代を超えて人々が「祈り」や「願い」の拠り所としてきた文化のよさを味わい、主体的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。【態】</p> <p>・造形の美しさ，面白さだけでなく，その背景にある人々の思いに気付かせる。</p>	
		<p>■「祈り」や「願い」について考える。</p> <p>①現代社会の問題，解決したいことについて考える。</p> <p>②日々の生活で悩んでいること，解決したいこと，避けたいこと，望んでいることなど，自分自身の「祈り」や「願い」について考える。</p>	<p>○現代社会の問題や，自分の生活をあらためて見つめ，「祈り」や「願い」の対象となる事柄を考えようとしている。【態】</p> <p>・現代社会の問題や課題について，コロナ禍やSDGsの視点等と関連付けながら考えさせる。</p>	「より良く生きようとする態度」
2	3 ～ 4	<p>■制作のテーマ決定と，体现の構想をすすめる。</p> <p>①自分自身の「祈り」や「願い」から主題を決め，アイデアスケッチをしながらイメージをまとめていく。</p>	<p>○主題を生み出し，豊かに発想し構想を練っている。【思】</p>	
		<p>■粘土によるイメージの試作をする。</p> <p>①アイデアスケッチを立体として実際に作り，造形の可能性を確認する。</p> <p>②素材である粘土を実際に触ることで，基礎的，基本的な扱いを体験，実感してみる。</p> <p>③授業の最後にいったん造形を崩す。</p>	<p>○主題の意図に応じて表現方法を工夫しながら，「祈り」や「願い」を体现しようとしている。</p> <p>○粘土の特性を生かしながら構想を形にしようとしている。【思】</p>	
3	5 ～ 7	<p>■本制作を行う。</p> <p>①粘土べらを使いながら本制作を進める。</p>	<p>○粘土の特性や用具の生かし方を身に付け，意図に応じて工夫して構想を表している。【知】</p> <p>・より美しい仕上がりを目指すこと，陶器としての堅牢さがあることを注意させる。</p>	「実体験を通して醸成される感性」
4	後日	<p>■作品を展示し相互鑑賞をする。</p> <p>①制作意図や解説の文章を作成し，作品と共に展示する。</p>	<p>・国語科における解説文の学習，社会科における地域の文化を踏まえた内容にさせる。</p>	「実体験を通して醸成される感性」

実践事例

教科名「美術科」・学年「1年」

授業者	西澤 明	授業クラス	1年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
祈りと願いの企画展		社会科「身近な地域の歴史」 国語科「作品の解説文を書こう」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「よりよく生きようとする態度」 「実体験を通して醸成される感性」		願いや祈りの目的を基に主題を生み出し、表現の構想を練る。【思考・判断・表現】 塑像の特性を理解し、意図に応じた工夫をして表現する。【知識・技能】	
STEAM教育の視点			
<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活には様々な「祈りや願い」の対象物がある。その「祈りや願い」の背景や表現方法に焦点を当てた活動を行う。 複数の教科等の資質・能力や見方・考え方の活用、実社会の問題解決としては、社会科の歴史的文化的学習における作者やその時代の人々の思いを踏まえ、作品の主題を現代社会における人々の祈りや願い、生徒たち自身の祈りや願いと関連付ける。 完成した作品を展示する際、作品の「祈りや願い」については社会科の学習と結び付けた解説をさせる。その際、考えを伝えるためのよりよい言語化については、国語科と連携を図る。 			
本時の授業のねらい			
<ul style="list-style-type: none"> 人々の様々な「祈りや願い」を理解し、自分自身の「祈りや願い」について考える。 自分自身の「祈りや願い」を叶えるものの表現の構想をする。 			
授業の流れ・活動等			時間
1. スライド画像で「祈りや願い」の対象の事例を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 豊穰祈願, 鎮魂 など (土偶など) 無病息災, 極楽往生, 商売繁盛 など (神仏像など) 魔除け, 邪気払い, 守護 など (シーサー, 狛犬, 鬼瓦, 鍾馗さんなど) 			30
2. 本単元の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">人々の「祈りと願い」を理解し、自分自身の「祈りと願い」をテラコッタで表現する</div>			2
3. 現代社会の問題や課題を考える。 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍 など SDGsの17の目標とのつながり 貧困・飢餓・健康福祉・教育・ジェンダー・水トイレ・エネルギー・経済・産業・平等・まちづくり・作る使う・気候変動・豊かな海・豊かな陸・平和・公正・パートナーシップ 			5
4. 自分自身の「祈りや願い」を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 悩んでいること, 解決したいこと, 避けたいこと, 望んでいること など 日々の生活, 人との関係 など 			10
振り返りと次時の確認をする。			3